

# JALしまねびより

今月の特集 JALしまね 第5回通常総代会開催



*Naomichi*

瀬幣姫神社 (浮布池)  
大田市 三瓶町





第5回

# 通常総代会特集

J Aしまね第5回通常総代会を6月30日（日）、松江市の島根県民会館で開催しました。



2019



議長団



投票風景

当日は、総代定数1,000人（欠員14人）に対し、965人（本人出席575人、委任状5人、書面出席385人）の出席、議長団に、稲田宗総代（くにびき地区本部）、西川友史総代（西いわみ地区本部）の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告、新年度事業計画など全議案が可決承認されました。竹下組合長が「今年の5月31日をもって政府が定めた『農協改革集中推進期間』が終了した。一定の評価はあったものの、予断を許さない状況は続いている。このような時だからこそ、協同の力を結集するとともに関係機関との連携を強化し、人・農地・地域資源をフルに活用した『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』へのさらなる挑戦、そして『地域の活性化』への貢献として、組合員の皆さまの声に基づいた総合事業とJA運営を行っていく」とあいさつ。

来賓の丸山達也島根県知事からは、「昨年6月に県が掲げた農業産出額100億円増加の目標に向け、先般JAグループ島根と島根県の間で目標の早期達成に向けた共同宣言を行い、車の両輪として双方が全力を尽くすことを改めて宣言した。令和という新しい時代にふさわしい積極的な姿勢で連携関係を構築し、水田園芸をはじめとする魅力ある農業の確立、島根の強みを活かした特色ある生産の振興、地域を支えていただく中核的な担い手の確保を強力に推進していきたい。活力ある農業・農村の実現に向けて、引き続き全力で取り組んでいく」との言葉をいただきました。

また、役員改選を行い、その後の理事会において新組合長に石川寿樹の就任が決定しました。石川新組合長のもと新たな執行体制がスタートしました。



# 平成30年度 事業報告

平成30年度は、経済の緩やかな回復の中、企業の設備投資は堅調に推移し、個人消費も持ち直しの傾向となった一方、世界経済の緩やかな減速を背景に輸出は伸び悩み、景気の足踏み感が見られました。

また、海外では米国と中国の経済対立による貿易戦争とも呼ばれる関税政策の応酬や英国のEU離脱を巡る混乱、リーダー照射事件や元徴用工問題による韓国との関係悪化など、国際的な政治・経済の先行きも不透明感が高まっています。

島根県内の経済を振り返ると、雇用情勢は改善の動きが見られ、個人消費も緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、少子高齢化、人口減少は一段と進展していく見込みであり、景気回復の実感を得るには至っていません。

農業情勢では、豪雨や台風、地震など多くの自然災害が発生し、全国各地で農産物・農業施設等に甚大な被害をもたらした他、9月に発生した豚コレラはいまだ終息の気配が見えず、復興・防疫の取り組みを引き続き進めていく必要があります。

国際貿易交渉では、平成30年12月にTPP11、平成31年2月に日EU・EPAが発効するなど、関税の削減や撤廃に向けた動きが始まっています。今後、米国との二国間交渉が開始される見込みであり、これらの動向について引き続き注視していく必要があります。

組織情勢では、平成30年6月に公表された農

林水産省による「農協の自己改革に関するアンケート調査」の結果で浮き彫りとなった、自己改革にかかるJAの取り組みと認定農業者等の認識との乖離について、解消に向けた担い手との対話を一層進める必要があります。また、農協改革集中推進期間が期限を迎えることから、平成30年12月から取り組みを始めた「JAの自己改革に関する組合員調査」の結果を受けた組合員との関係強化やJAへの理解促進に向けた取り組みについても引き続き進めていく必要があります。

こうした状況の中、平成30年度は「農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として、県や市町村、関係機関と連携し、営農指導と経営指導を通じた農業所得の増大、農業生産の拡大に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が37,752百万円、購買品供給高が33,915百万円、貯金残高が977,670百万円、貸出金残高が298,851百万円、長期共済保有高3,438,480百万円となりました。また、財務状況の安全性を示す指標である自己資本比率は14.06%となりました。

収支面については、事業利益が1,628百万円、経常利益は2,594百万円。当期剰余金は1,869百万円となり、前年度実績を大きく上回りましたが、貸倒引当金の算定方法を変更したことにより、特に信用事業において貸倒引当金戻入益が933百万円発生したことが主な要因です。

## 財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	平成29年度	平成30年度
財務	事業利益	1,016	1,628
	経常利益	2,189	2,594
	当期剰余金	609	1,869
	総資産	1,092,634	1,113,478
	純資産	77,986	79,235
信用事業	貯金	984,693	977,670
	預金	499,645	522,005
	貸出金	299,671	298,851
	有価証券	167,390	155,212
	国債	80,375	78,123
	その他	87,015	77,088
共済事業	長期共済保有高	3,541,460	3,438,480
	短期共済新契約掛金	10,184	9,805
購買事業	購買品供給高	34,014	33,915
販売事業	販売品販売・取扱高	38,129	37,752

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。

(注2) 販売品販売高・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計。

## 平成30年度(第5事業年度)剰余金処分

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,643,671,345
2. 剰余金処分額	1,983,530,105
(1)利益準備金	374,000,000
(2)任意積立金	1,386,464,000
農業振興積立金	200,000,000
農業災害積立金	200,000,000
教育研修充実積立金	150,000,000
税効果積立金	236,464,000
信用事業システム開発積立金	200,000,000
BIS規制強化対応積立金	200,000,000
施設等更新積立金	200,000,000
(3)出資配当金	223,066,105
3. 次期繰越剰余金	660,141,240

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合である。

(注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額93,486千円と、地区本部業績還元のために繰越額100,000千円が含まれている。



# 令和元年度 事業方針

## 農業振興

### 方針

令和元年度は「第2次農業戦略実践3カ年営農計画」の初年度となり、第1次計画での成果と反省を踏まえ、島根農業のモデルとなる経営形態を提案することにより農業戦略を明確にし、多くの組合員がJAに結集することで「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現につながる目標の達成に向けて取り組みます。

また、JAしまねがリーダーシップをとり、更に組合員の経営基盤の強化を進め、島根県が目標に掲げた「農業産出額目標730億円」「生産農業所得目標300億円」の目標達成に向け取り組みます。



### 重点事項

- ① 新規就農者を含む地域の担い手育成
- ② 担い手経営体の経営課題に対応した農業経営管理支援
- ③ JAの総合力を発揮した事業承継支援の実施
- ④ 農作業等の安全・安心対策
- ⑤ 営農指導での生産者貢献
- ⑥ 農業振興支援事業の実施
- ⑦ 「重点推進5品目」の拡大を核とした水田での園芸振興の推進
- ⑧ 主食用米の「きぬむすめ」「つや姫」への品種誘導
- ⑨ 島根県産農畜産物の安全安心の取り組み
- ⑩ 担い手の労力軽減の取り組み

### 全般

### くらしの活動

豊かなくらし・地域づくりを目的とし、地域活性化の核となる取り組みとしてすすめます。

また、食と農、地域とJAを結ぶ取り組みとして、青年組織、女性部をはじめ組合員や地域住民など幅広い参

加・参画（アクティブ・メンバーシップ）を促進し、農協運動の活性化を図ります。

### 販売事業

しまねブランド商品として市場や卸に頼らない県産農畜産物の販売の強化に取り組みとともに、生産基盤の維持・拡大を図るため、「農業戦略実践3カ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

### 購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・TACと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

また、組合員・地域住民の暮らしを支援し、地域の活性化に貢献するとともに、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃料

事業を積極的に取り組み、より一層のサービスの充実に努めます。

### 信用事業

総合事業の強みを活かして他業態と差別化した価値を提供しつつ、コスト削減につながる事業見直しにより持続可能な収益構造を構築し、農業・地域から一層必要とされる存在を目指します。

### 共済事業

組合員・利用者のくらしを守り、農業経営と地域社会に貢献する活動を展開するため、地域密着の事業活動である3Q訪問活動を通じて「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供及び「農業リスク診断活動」を実践し、一層の『信頼』を高めるとともに、次世代・次世代など新たなJAファン（理解者）づくりにより事業基盤の維持・拡大を図ります。

また、高位均質で満足度の高いサービスの提供、適正・迅速かつ効率的な事務処理の実施及びLabels（※携帯用タブレット端末）の全面活用により事業の効率化・機能強化を図り組合員・利用者ニーズに応えます。



## 新役員代表挨拶

代表理事組合長  
石川 寿樹

この度、竹下前組合長の後を受けて、組合長に就任致しました石川でございます。もとより、その器ではございませんが、よろしくお願い申し上げます。

若干自己紹介をさせていただきますと、わたしは昭和27年生まれ、満66歳になります。昭和52年に当時の出雲市農協に入り、爾来42年に亘り、JA一筋に歩んでまいりました。

さて、7月より3年の任期をいただいたわけですが、わたしに課せられた役割は、大きく二つあると思っております。

その一つは、「統合の効果」を更に発揮することです。平成27年3月にJAしまねが誕生し、早いもので4年余りが経過しました。徐々にその成果が現れつつありますが、とは言え、統合して良かったなあと実感

できるようなレベルには達していません。まだまだ調整すべき事項がたくさん残っていますので、速やかに統一していく必要があります。

そして今一つは、「自己改革」の更なる実践です。政府主導の農協改革の集中推進期間は本年5月を以て一応のピリオドが打たれました。しかしながら、われわれ自らが掲げた「自己改革」は、むしろこれから本番です。例えば、柱の一つである「農業者の所得増大」については、生産資材価格の引き下げ等に取り組みでまいりましたが、まだ引き下げの余地があると思っております。

また、「農業生産の拡大」についても、米の買取制度や独自の農業振興支援事業により、販売高は統合前と比較すると、平成30年度は13億円増の377億円となりました。更に令和3年度を最終年度とする次期中期経営計画では、39億円増の416億円の計画を立てています。自ら立てた計画を絵空事で終わらせるのではなく、目に見える形で実践していくことが、何よりも重要な使命だと思っております。

最後に、今後一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

## 退任役員代表挨拶

前代表理事組合長  
竹下 正幸

退任にあたりごあいさつを申し上げます。

先の通常総代会を以て、任期満了により平成28年6月より務めてまいりました、代表理事組合長を退任いたしましたこととなりました。

在任中大過なくその任を果たせましたのも、組合員の皆様をはじめ、関係機関、各団体、地域の皆様、そして職員の皆様など、本当に多くの方々のご理解とご協力の賜物と、心から感謝を申し上げます次第でございます。

振り返ってみますと、JAしまねの発足以後、「信頼され、選ばれ、ご利用いただけるJA」を目指し、統合メリットの創出に向けて事業改革や運営改革などに取り組みとともに、「儲かる農業の実現」を目指し、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を最重点課題として自己改革に取り組んで参りま

した。

また、JAの経営は経済情勢と社会情勢の変化もあり、非常に厳しい状況にあるなか、組合員の皆様の負託に應えるためには、JAの健全経営を行う体制整備に併せ、事業改革を実施する事が、私たちに課せられた課題であります。このような中、第4回通常総代会において、次期に向けた運営改革の決議をいただき、平成30年11月の臨時総代会では役員定数の見直し等の新たな運営体制についてご承認いただき、体制整備を行うことができました。一方、事業改革では、信用共済事業において、本店と支店を直結する文鎮型組織とし、事業部制的運営とするなど、一定の方向性を決定しましたが、営農経済生活事業につきましては、取り組まなければならない今後の課題が残存しています。JA改革においてはTPPやTAG等、JAを取り巻く農業情勢は依然厳しい状況が待ち受けておりますが、今後も組合員の皆様のご協力をいただき、役職員一同が共通認識を持ち、一丸となって取り組むよう期待しています。

組合員の皆様には、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、心からの感謝を申し上げます、退任のごあいさつといたします。





# 新役員紹介

J Aしまねの発展につとめてまいります。  
よろしくお願ひ致します。



常務理事  
(信用、共済)  
有田 吉弘



常務理事  
(営農、経済)  
石川 薫



代表理事専務  
高木 賢一



代表理事副組合長  
山根 盛治



代表理事組合長  
石川 寿樹



くにびき地区本部  
常務理事 本部長  
栗原 令



理事  
佐々木孝子



理事  
高野 智子



理事  
諏訪 智子



理事  
小村 伸治



やすぎ地区本部  
理事  
根来 茂樹



やすぎ地区本部  
常務理事 本部長  
伊藤 精一



くにびき地区本部  
理事  
多久和 宏



くにびき地区本部  
理事  
田中 鈴夫



くにびき地区本部  
理事  
菅井 一



隠岐地区本部  
常務理事 本部長  
佐々木賢治



雲南地区本部  
理事  
澤田 秀樹



雲南地区本部  
理事  
石原 公夫



雲南地区本部  
理事  
新田 昭喜



雲南地区本部  
常務理事 本部長  
竹下 克美





出雲地区本部  
理事  
藤江美由紀



出雲地区本部  
理事  
福島 隆



出雲地区本部  
常務理事 副本部長  
珍部 誠



出雲地区本部  
常務理事 本部長  
岡田 達文



隠岐どうぜん地区本部  
常務理事 本部長  
新谷 徳昭



斐川地区本部  
理事  
青木 広幸



斐川地区本部  
常務理事 本部長  
山根 善治



出雲地区本部  
理事  
永瀬のり子



出雲地区本部  
理事  
伊藤 篤男



出雲地区本部  
理事  
立脇 渉



いわみ中央地区本部  
常務理事 本部長  
佐々木 豊



島根おち地区本部  
理事  
山田 康司



島根おち地区本部  
常務理事 本部長  
日高 光弘



石見銀山地区本部  
理事  
川上 隆



石見銀山地区本部  
常務理事 本部長  
山崎 辰次



西いわみ地区本部  
理事  
青木 和憲



西いわみ地区本部  
理事  
中島 重秋



西いわみ地区本部  
常務理事 本部長  
田村 清己



いわみ中央地区本部  
理事  
藤若 将浩



いわみ中央地区本部  
理事  
中東多久夫



監事  
川神 守



監事  
岡 睦夫



常勤監事  
田尻 宏



常勤監事  
青砥 正幸



代表監事  
名原 佳宏



雲南地区本部  
執行役員副本部長  
源 之美



くまびき地区本部  
執行役員副本部長  
奥原 展芳



員外監事  
山川 博司

# 第5回 総代会



**Q 1 :** 正組員、准組員ともに減ってきている。このことについて、これまでの取り組みや今後の対応策を聞きたい。

**A 1 :** 統合以前より高齢化や死亡による脱退が進む一方で、若年層の加入が進まない状況にあります。今後の大きなテーマとして、我々の組織基盤維持の観点で検討して参ります。その中で、平成29年度より一戸複数正組員化の取り組みを展開しており、今年度も継続して取り組む計画を立てています。また、増資の取り組みとして役職員による増資運動を前年度と今年度の2年間取り組む予定としています。

**Q 2 :** 農林中金からの人材受け入れの背景や、奨励金の引き下げの課題への対応等の考えを伺う。

**A 2 :** 農林中金は農業振興への資金支援が厳しくなるなか、全国で400名、島根県に3~4名程度の農林中金の職員を派遣する人的支援に方針が変わってきています。また今回の役員改選では農林中金から理事を受け入れる提案としています。奨励金の引き下げは以前から話があり、大変厳しい内容の中で中期3カ年計画を策定いたしました。事業改革を含めてこれから取り組んでいく考えです。

**Q 3 :** 貸倒引当金の算出方法の変更に伴う戻入益10億円とあるが、変更となった経過を確認したい。

**A 3 :** 公認会計士監査や財務処理の基準例が変更になり、これまでの税法基準から、貸倒実績率に基づく引当てを合理的な基準として引当てることとなりました。その結果、これまで引当てていたものを戻し入れることになりました。

**Q 4 :** 県内農業の持続可能な発展に向け、様々な担い手・後継者対策がなされてきたが、目覚ましい解決に

は至っていない。これからは行政との連携を更に進め対応することが求められるが、JAしまねの社会的使命を今一度伺いたい。

**A 4 :** 非常に大きな課題であり、JAのみならず島根県をあげて取り組むべき問題と思っています。特に農家を中心とした中山間地の人口減少には、産業政策、農業振興政策、そして住みよい町づくりといった課題のもとに、行政や地域の皆さんと一緒に取り組む問題と思っています。その中で、JAも率先して取り組んで参ります。

**Q 5 :** 教育研修機能を県中央会へ移管するとあるが、考え方やあるべき姿を伺う。また事業総利益に基づく配置ではなく、農家が必要とする人員配置や要因管理をお願いしたい。農業は土地と結びついた生産作業であり、農業者に寄り添った職員の教育が中央会にできるのか不安に感じる。地元に着した教育研修をもっと取り入れてほしい。

**A 5 :** 統合により教育研修の担当部署を県中央会からJAしまねの内部部署に移管した経過があります。その後の検討で、教育研修についてはJA内部よりも外部の機関がJA職員研修、育成にあたるべきであるとの考えがまとまりました。全国中央会が教育研修の統括機関として存在している中、全中、県中にてJAしまねの職員教育、人材育成を行うかたちに体制を変更するものです。またJAの事業は総合事業ですので、人員配置にあたっても事業の特性、実態を念頭におきながら基準を定め今後再配置等を実施して参ります。地域に着した教育研修についても検討して参ります。

このほかにも幅広くご意見をいただきました。



本総代会にて付議した議案は次のとおりです。

- 第1号議案 平成30年度事業報告及び剰余金処分案について
  - 第2号議案 第2次中期経営計画（令和元年度～令和3年度）の設定について
  - 第3号議案 第2次農業戦略実践3カ年営農計画の設定について
  - 第4号議案 令和元年度事業計画の設定について
  - 第5号議案 役員選任について
  - 第6号議案 定款の一部変更について
  - 第7号議案 規約の一部変更について
  - 第8号議案 監事監査規程の一部変更について
  - 第9号議案 経営基盤強化積立金規程の一部改正について
  - 第10号議案 会計監査人の選任について
  - 第11号議案 令和元年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について
  - 第12号議案 退任理事に対する退職慰労金の支給について
  - 第13号議案 退任監事に対する退職慰労金の支給について
  - 第14号議案 令和元年度における理事の報酬額の決定について
  - 第15号議案 令和元年度における監事の報酬額の決定について
- 報告事項 「JAバンク基本方針」の変更について





# 「JAしまね自己改革取組宣言」 に基づき、自己改革を一層進めて まいります。

6月30日の第5回通常総代会において、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標の実現に向けて、引き続き、組織を挙げて取り組む旨の「自己改革取組宣言」(案)が満場一致で採択されました。

## JAしまね 自己改革取組宣言

JAは、農畜産物の販売事業のほか、信用事業、共済事業などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動などを通じて総合的に結びつけ、農業振興や地域づくりに取り組んでいます。「総合事業」として実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、組合員の負託に応えることが可能となっています。

また、人口減少や高齢化が進むなか、JAの各事業・サービスの提供による生活インフラ機能の発揮と、「食と農」、「助け合い」の視点から、組合員だけでなく地域住民の方々にも参加いただく「JAくらしの活動」の展開が、ますます重要なものとなってきています。

近年、農業者である正組合員に加え、JAの事業を利用し、JAの理念・活動に賛同いただける地域住民の方々の准組合員加入が増えています。准組合員の立場から、JA、農業者が進める「食の安全・安心」の取り組みを「地産地消」という形で後押しするとともに、JAが行う各組織活動への参加によって、地域農業を支える「農業振興の応援団」となっています。正組合員と准組合員の一人ひとりが力を合わせ、地域の農業とくらしを支えあっているのです。

こうした環境・背景を踏まえ、JAしまねは自己改革の3つの基本目標の実現に向けて、組合員の皆さまとともに、以下のとおり組織をあげて取り組みを進めてまいります。

### 記

1. 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組めます。
2. 協同組合の原点に立ち返り、組合員の皆さまとの話し合いを、より一層深めていきます。
3. これまでも、これからも、JAしまねは総合事業を展開し、地域にとって、なくてはならない組織であり続けます。

以上

令和元年6月30日

第5回 島根県農業協同組合 通常総代会



雲南

## 農業者・女性部健診新設 対象広く項目充実

雲南地区本部とJA島根厚生連は、農業生産や日々の生活の土台となる「健康づくり」を支援しようと、今年から新設した「農業者・女性部健診」を6月21日に同地区本部で実施しました。

農業従事者や女性部員をはじめとした組合員が対象で、一般的な健康診断の項目にはない、胸部CT検診（40歳以上）や甲状腺検査などがセットとなって、JAグループの助成により7,000円で受けることができます。健診を受けた女性は「かかりつけ医では受けられなかった血液、尿検査の他にも色々と検査できてよかった。来年も受けたい」と健診内容に満足した様子でした。

JA島根厚生連健診普及部の江角幸夫部長は「受診者アンケートでは約40%の方が、毎年健診を受診していない現状にあり、JAグループが魅力ある健診を提供し、直接、組合員に呼び掛けることは大いに意義がある。今年は県内全11地区本部で実施を予定しており、各地区本部と協力して取り組みを進めたい」と話しました。



「農業者・女性部健診」を受ける女性

くにびき

## カボチャを重点振興品目に！ 6月下旬より共販出荷を開始

くにびき地区本部は7月2日、中海干拓研修センターで「カボチャ出荷検討会」を開催し、生産者やJA職員、各市場担当者など43名が参加しました。

6月27日より、松江市内の市場を中心に広島や大阪の市場に向け、共販出荷を開始しており、品質や生育状況、出荷する際の規格や品質基準、収穫適期、保存方法を確認する目的で開催しました。

当日は、松江合同青果や広印広島青果、東果大阪の担当者が市場の情勢について解説。続いて、営農指導課の犬山浩二園芸特産係長が「収穫後にキュアリングをすることで腐れを防ぎ、甘みも増す。収穫適期を逃さず、適切な保存に努めてほしい」と説明しました。その後、参加者は出荷前のカボチャを実際に手に取ったり、試食したりするなど品質や味を確認しました。

同課の岩田政彦課長は「昨年より重点振興品目として取り組んでいる。ほくほくとした食感と濃厚な甘みを堪能してほしい」とPRしました。

参加した吉岡清さん（朝酌町）は「コクがあり、おいしいカボチャなのでたくさんの方に食べてもらいたい」と話しました。

今年度は共販面積を1.6haから3.5haに拡大。出荷量は92tを計画しており、出荷は8月末まで続きます。



カボチャを手に取り状態を確認する参加者

隠岐

## JA女子大学で ぶどう狩りを体験

JAしまね女子大学隠岐キャンパスは7月27日、第8回目の講座として日帰り修学旅行を行いました。朝早くから高速船レインボーに乗船し、出雲地区本部管内でぶどう園を経営する大社観光ぶどう園へ出かけました。ぶどう園では、今が旬の「デラウェア」狩りを体験し、出雲地区本部管内の特産品であるぶどうを味わうことができ、参加した生徒からは「甘くて大変おいしい」と好評で、1人2房程度はぺろりと食べていました。今年は天候不順等の影響で良品が例年に比べて少ないとのことから、生徒からは「良品のぶどうが沢山ある時にまた来たいね」と声が聞こえました。

ぶどう狩りの後は、歴史を感じる体験を目的に松江の堀川遊覧船に乗船しました。隠岐の人間は船に乗る機会が多いものの、風情のある松江城の周辺をゆったりと遊覧できたことは、一緒に旅をした者同士の良い思い出になりました。



やすぎ

## ホック食育フェスタで 金芽米をPR

やすぎ地区本部は松江市のくにびきメッセで6月22・23日の2日間、(株)フーズマーケットホックが主催する「ホック食育フェスタ2019」に出展しました。

同地区本部はJAしまねの「金芽米」と「ロウカット玄米」をPRするため、試食や健康特性の説明などを行い、来場者に好評でした。また、家庭でも食べてもらおうと、サンプルとして金芽米3合を400袋プレゼントし、サンプルを受け取った来場者は「今日いただいた金芽米を家族と一緒に食べてみます」と話しました。

今年は食品メーカーをはじめとする約60のブースが出展、2日間で約1万名が来場し大いに盛り上がりました。精米センターの三島裕所長は「金芽米のおいしさを実感してもらおう良い機会となった。さらに金芽米の認知度を高めたい」と話しました。





## 斐川 美肌はとむぎ料理講習会

斐川地区本部よい食工房は7月9日、ひかわあぐりキッチンふぁみーゆで「誰でも簡単・お手軽レシピ」と題して「美肌はとむぎ料理講習会」を開催しました。はとむぎに興味を持つ13名が参加し、郷土マクロビアンの岡 里美さんを講師に招き、「はとむぎ茶飯」「とうもろこしとはとむぎのスープ」など計5品を調理しました。出来上がった料理を岡さんと一緒に堪能しながら、はとむぎについての効果・効能についての説明を受けた参加者は、「地元こんな素晴らしい食材があったなんて驚いた!」「健康と美容のためにも、これからも家族で食べていきたい」などと感想を話しました。健康・美容志向が高まる中、よい食工房では斐川町産のはとむぎの良さを多くの人に知ってもらうために、このような料理講習会を今後も継続して開催していく予定です。



## 石見銀山 大田市長へメロンを贈呈

温泉津町施設園芸組合の岩倉勝政組合長、厚朴邦広副組合長は7月11日、大田産メロンPRのため大田市役所を訪れ、楢野弘和大田市長に「アムスメロン」を贈呈しました。同組合では7月3日から「アムスメロン」の出荷が始まっています。

早速、試食した楢野市長は「とても甘くておいしい」と感想を話しました。

岩倉組合長は「糖度が高く、美味しいメロンに出来上がっている」と語りました。

大田市長へのメロン贈呈は地元産のメロンを広くPRしていきたいという思いから企画しています。

楢野市長は「暑い中の作業だが、体調に気をつけながら地域のために頑張っていたください」と激励しました。



市長（左）にメロンを贈呈する岩倉組合長（中央）、厚朴副組合長

## 隠岐 どうぜん 令和初の家畜市場の開催

7月3、4日の両日、新元号初の隠岐どうぜん管内家畜市場が開催されました。隠岐諸島では、春（3月）、夏（7月）、秋（11月）の年3回家畜市場が開催され、島の一大イベントとして風物詩となっています。隠岐どうぜん管内は、知夫里島（知夫村）、中ノ島（海士町）、西ノ島（西ノ島町）の3島3町村で構成されており、各町村に家畜市場が常設されていて、畜産の重要性が理解できると思います。3日の知夫市場を皮切りに、海士市場、翌4日の西ノ島市場と、子牛240頭、成牛22頭の合計262頭の上場となり、前回（3月）市場より上場頭数は減りましたが、平均価格は若干上昇しました。畜産総合施設として開設した西ノ島家畜市場が、関係者の協力によりスムーズな運営となり、無事1周年を迎えた記念を込め、前日の2日に当施設中央広場にて、購買者、畜産農家とJAをはじめとする関係者による、バーベキュー意見交換会を開催しました。出席者の貴重な意見を聞くことができ、有意義なひと時となりました。また、今後もこのような場を設けてほしいとの声が多く聞かれ、畜産の活況に結び付けたいと同時に大きな励みになりました。



## 出雲 島根県産シャインマスカット 出荷本格化を前に目合わせ

出雲地区本部は7月15日、同地区本部荒茅ぶどう集荷所で令和元年産「シャインマスカット」の出荷目合わせ会を開きました。出荷の本格化を前に、生産者ら約150人が等級規格を確認しました。

同地区本部管内の「シャインマスカット」の作付面積は右肩上がりで増えており、今年産は28ヘクタール（前年比16%増）で栽培します。ギフト需要に対応するため8月上旬までの出荷量を伸ばし、管内の販売金額3億円を目指します。

同部会大粒系部の吾郷均部長は「品質重視で他産地と勝負していく。商品を扱っているという意識を持って、選果選別を徹底してほしい」と呼びかけました。

JAしまねでは、激化する産地間競争に対応しようと、今年産から県下の「シャインマスカット」の共同計算を実施しています。一元的に管理して品質の高位平準化を図るとともに、ロットの拡大で売り場確保、県産「シャインマスカット」の地位向上を図ります。



出荷規格を確認する生産者



西いわみ

## 益田市長に旬のメロンと ブドウを贈呈しました

旬を迎えるメロンと、大粒系ブドウを味わってもらおうと7月10日、益田メロン部会(部会長大場尚俊)と西いわみぶどう部会(部会長岩本和雄)が揃って益田市山本浩章市長を訪ね、「アールスメロン」と「シャインマスカット」「巨峰」「ピオーネ」を贈呈し益田産農産物をPRしました。

当日は同市常盤町の市長室に、大場部会長と岩本部会長が化粧箱に入った「アールスメロン」と「シャインマスカット」「巨峰」「ピオーネ」を持参しました。

試食した山本市長は「メロンは口当たりが良くとても甘い。ブドウも香りが良くおいしい」と喜びました。

JAでは、今後も管内農産物のPRや販売促進に向けた取り組みを継続していく計画です。



島根  
おおち

## ケイトウ栽培いよいよ大詰め

島根おおち女性部では営農活動として「ケイトウ栽培」に取り組んでおり、今年で8年目をむかえました。2月に開催した「ケイトウ栽培講習会」を皮切りに、4月中旬からは各支部で「種まき講習会」、5月には「定植に向けた栽培現地講習会」、6月には「栽培管理講習会」、7月には「出荷目合わせ会」を開催し、出荷のピークとなるお盆に向け準備を行っています。天候に左右され、毎年様々な課題もありますが、4月に一粒一粒丁寧に蒔いた種は順調に成長し出荷時期を待っています。今年も「赤」、「オレンジ」、「ピンク」3色のケイトウの出荷を予定しています。

島根おおち女性部では「ケイトウ栽培」の活動を継続していくことで、ケイトウ栽培の輪、そして女性部活動の輪を拡げていきたいと考えています。



ケイトウの生育状態を確認する島根おおち女性部寺内部長

本店

## アグリミーティング& 農機総合展示会 大盛況!

6月13、14日の2日間、松江市のくにびきメッセで「アグリミーティング2019」と「第9回農機総合展示会」を開催しました。

今年のテーマは「『新時代』みんなで創るしまねの農業～島根の農業半端ないって!!～」に設定。相談コーナーなど様々なブースや、最新農業機械を展示し、担い手の皆さまが抱える様々な課題の解決に向けて、JAグループの総合力を発揮し提案しました。県内で生産された旬の野菜や果物、加工品を販売し島根農業の魅力を発信する「島根大産直市」も同時に開催し、2日間で担い手や一般消費者あわせて5,500人の皆さまにご来場いただきました。

メインステージでは「下町ロケット ヤタガラス編」の登場人物のモデルとなった北海道大学大学院農学研究院副院長・教授の野口伸氏から、スマート農業技術の必要性や実用化が期待される最新の技術について講演いただいたほか、女性部フレッシュミズ部会がプロデュースした農作業着ファッションショーを行うなど会場は大変盛り上がりしました。



相談ブースやメーカーの展示が並ぶ会場は多くの人で賑わいました

いわみ  
中央

## 青年連盟 出前授業で地域と交流

いわみ中央青年連盟(柿木悟委員長)は7月19日、公民館活動の一環として浜田市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターからの依頼を受け、この度、初めてこんにゃく作りの出前授業を行いました。当日は20名の参加者を4班に分け、こんにゃく芋をサイコロ状にカットするところから作業を始めました。作業中は和気あいあいとおしゃべりしながらでしたが、最終工程の茹でる段階になると、他の班の出来具合が気になるのか、集中し徐々に無言になりました。自分達で作ったものは臭みもなく、格別においしいこんにゃくが出来上がりました!参加された皆さんは大満足でした。青年連盟は今後も交流活動や、食農教育活動を積極的に行っていきます。





JA  
自己改革  
実践中

JAグループ島根

# JAしまね農業振興支援事業 活用事例のご紹介



JAしまねでは、経営拡大に向けた基盤整備や機械等の更新対策、県域でのモデル事業を実施するために、「JAしまね農業振興支援事業」に取り組んでいます。

古谷光教さん（44歳）は、隠岐郡知夫村で繁殖牛を飼育しています。知夫村での飼育は、その環境を活かした放牧が主となりますが、一方で放牧であるが故の事故や牛の行方不明などが起こりやすい状況があります。古谷さんは牛たちが事故にあわないよう、毎日の観察や見回りを徹底するなど、細やかな気配りを欠かしません。

JAしまね農業振興支援事業は平成29年11月に新規就農の際、就農にあたって必要となる牛舎の整備や畜産専用機械の導入、また牛の価格高騰が続いていることから所得の安定を図るため繁殖母体となる雌牛の早期確保に活用しました。

新規就農者や後継者不足など隠岐地域の大きな課題に向け、JAには新規就農者や家畜農家への継続的な支援を期待しています。

古谷さんからは「年間出荷頭数30頭が目標。知夫村全体の出荷頭数の増加に貢献したい」と意欲をお話いただきました。

隠岐郡知夫村 古谷 光教さん



## 一所懸命 青年連盟

### JAしまね島根おおち青年連盟

JAしまね島根おおち青年連盟は、島根県のほぼ中心にある邑南町、川本町、美郷町、江津市桜江町の盟友146名で構成されています。活動については、食農教育活動に力をいれており、管内の保育所、園に野菜苗を配布し、その収穫した野菜と盟友が作った野菜を使って「愛菜カレーの日」というイベントを開催しています。管内すべての保育所、園（16ヶ所）で、園児と一緒に野菜を切ったり、皮をむいたりしてカレーを作り、食べて交流しました。また、盟友が食に関する紙芝居を読んで園児達も熱心に聞いていました。今後もJAしまね島根おおち青年連盟は、未来を担う子供たちと一緒に、食農教育活動を続けていきたいと思っています。





## ふれあい ニュース

雲南管内の  
旬な情報をお届け!

UNNAN  
FUREAI  
NEWS

UNNAN  
FUREAI  
NEWS

### 01 神楽甲子園に向け練習 飯南高校が初出場

全国から神楽に取り組む高校生が集まり、日頃の研究や練習の成果を披露する「第9回高校生の神楽甲子園」(7月27、28日、広島県安芸高田市)に、島根県立飯南高等学校の神楽愛好会が初出場しました。

飯石郡飯南町に拠点を置いて活動する飯南神楽団から演技指導を受けており、7月23日には愛好会のメンバー8人で本番に向けた練習に取り組みました。

幼い頃から神楽に触れ、現在は飯南神楽団に所属している3年生の中野愛翔さんが扇動し、地域交流やボランティアなど、地域とのふれあい活動に取り組む有志のクラブ活動「生命地域ラ



▲本番を間近に控え、練習にも力が入ります(7月23日)

■神楽甲子園での勇姿は、9月号の表紙にてご紹介いたします。

ポの一環として、学年の枠を越えた8人で愛好会を発足しました。中野さんは「良い舞台を見せることでお世話になった人たちに恩返ししたい」と意気込み、同高校の主幹教諭、岡秀樹さんは「生徒や地域の方々の神楽への想いを強く感じた。自分たちが満足できる舞いを披露してほしい」と話しました。

UNNAN  
FUREAI  
NEWS

### 02 委員会発足しドローン導入 ユニフォームで一体感醸成

仁多郡奥出雲町の梅木原地区と高田地区は、「梅木原・高田集落営農組織連携推進委員会」を発足し、今年からドローンによる水稻のいもち病やカメムシなどの防除を開始しました。7月22日には第1回目の薬剤散布が高田地区で行われ、同地区の3人のオペレーターが動作を確認しました。

高田地区は、出穂前と出穂後の2回防除を予定しており、面

積は延べ35ヘクタール。梅木原地区は出穂後の1回で約15ヘクタールに散布する予定です。オペレーターは両地区合わせて5人おり、一体感を醸成するため、ユニフォームを作製し作業にあたっています。

梅木原集落営農組合の代表は「将来を見越して導入した。気持ちを一つにしてチームとして取り組んでいきたい」と話しました。

UNNAN  
FUREAI  
NEWS

### 03 一体となった取組みで 地域農業活性化を目指す

雲南市、奥出雲町、飯南町と雲南地区本部で組織する雲南農業振興協議会は7月2日、同地区

本部で令和元年度総会を開催しました。行政やJA、関係者ら40人が出席し、事業計画などが原案通り承認されました。当協議会は、関係機関が一体となって広域的な農業の振興を図ることに、雲南地域の発展、地域農業を活性化させることを目的とし

ています。

平成30年度末時点では172の集落営農組織が雲南管内にあり、令和元年4月には新たに2つの法人が設立され地域農業の主要な担い手として活動を行っています。同協議会の勝田康則会長(奥出雲町長)は「地域の農業を守り活性化を図るために、市、町、JAが連携し、協議会の役割を果たすべき」と呼びかけました。



▲あいさつを述べる勝田会長



▲「U・T farm sky team」と名付け、作業を進めています



04

飯南の共同選果場が稼働  
説明会で出荷規格など確認

飯南町下赤名にある飯南町野菜共同選果場では、飯石郡飯南町の振興作物である、メロン、トマト、パプリカの選果をしています。7月12日には、飯南営農経済センターの職員による出荷説明会が行われ、選果場の運営やトマトとパプリカの出荷規格について同町の生産者に説明しました。

説明会では当日出荷されたトマトを例に、出荷する目安を説

明し、等級の決め手となるキズや着色度合いについても細かく確認しました。

選果機は、重量選別に加えて、重量測定、外観測定、内部測定が同時に行え、高品質な選果と安定した品質の農産物が出荷できます。トマトやパプリカは3個/秒で選果でき、生産者の出荷調整作業の負担を減らして、栽培管理に注力してもらおうと平成29年から導入しています。



▲出荷の目安となる微妙な色合いを解説する福間達也職員(右)

06

あぐりキッズそば打ち体験  
七福そばクラブが指導

雲南地区本部が開校するあぐりキッズスクールは7月6日、耕作放棄地を有効活用し、ソバの生産やイベントで打ちたてのそばを提供している七福そばクラブから指導を受け、そば打ちを体験しました。

同クラブの小田川清代表らが実演し、その後、キッズ生や保護者も挑戦。そば打ちの奥深さを知りキッズ生は「ソバがとても好



▲慎重にソバを切るキッズ生

きになった」と話し感謝の言葉を述べました。

05

J A カップ 雲南地区予選  
来島ポニーズが初優勝



▲決勝では晴れ間が広がり、白熱した戦いを見せました。

J A カップ 第36回島根県学童軟式野球選手権大会(県軟式野球連盟・山陰中央新報社主催、J A しまね・J A 共済連島根特別協賛)の雲南地区予選が7月20、21日に行われ、12チームが出場。決勝戦では来島ポニーズが9-2で木次野球スポーツ少年団を下し、初優勝を飾りました。

優勝した来島ポニーズは8月



▲初優勝した来島ポニーズの皆さん

17、18日の松江市菅野球場で行われる県大会に出場する予定です。

07

栽培技術向上へ  
秋まき野菜について学ぶ

雲南地区本部は6月24日から7月1日にかけて、毎年恒例の秋まき野菜の栽培講習会を10会場で開催しました。

J A の担当者が、秋まき野菜の栽培管理と売れ筋農産物の品種特性を紹介し、島根県東部農林振興センターの担当者が農薬の適正使用について呼びかけました。参加者は「出荷時の荷姿など細かい指導を受けたので、参考にしたい」と話しました。



▲7月1日には雲南さくら支店で開き、参加者はメモを取るなどして話を聞きました

# 総代説明会

雲南地区本部は、6月16日に令和元年度第1回総代説明会を開きました。平成30年度は「第1次中期経営計画（3カ年経営計画）」「農業戦略実践3カ年営農計画」の最終年度として役員が一体となって目標に向かい、取り組みを進めました。

次期3カ年営農計画の策定に当たっては、県及び1市2町と共に取り組む「鳥根県新たな農山漁村活性化計画」の内容を取り入れ、県域で取り組む内容と雲南独自の取り組みを明確にして、実践していきます。

1市2町と連携し、それぞれの農業振興施策を踏まえ、その地域の実態を把握しながら、JAの使命である「農業者の農所得増大」「農産物の拡大」「地域の活性化」に取り組んでいきます。

## 会議の議題

- (1) 平成30年度事業報告ならびに決算報告について
- (2) 令和元年度事業計画について
- (3) 第5回JAしまね通常総代会議案について
  - ① 平成30年度事業報告及び剰余金処分案について
  - ② 令和元年度事業計画の設定について
- (4) 第2次中期経営計画（3カ年経営計画）の設定について
- (5) 第2次農業戦略実践3カ年営農計画の設定について
- (6) 米づくり生産組織活動のための拠出金について
- (7) 雲南地区本部連絡事項
- (8) その他

## 「意見・要望」と

## 「その回答」

Q 令和元年度買取米取扱計画について、やり方が変わったという説明があったが、どのように変わったのか。

A 平成27年産米は共計方式としていましたが、精算までの期間が長すぎるため、平成28年産米には買取方式へ転換し、出来秋に一発買取を行いました。しかし10、11月頃に作況など、米の相場を左右する状況が明らかになるため、平成29年産米については8月頃に買取価格を決定し、その後、払える情勢であれば追加金を払うという整理を行いました。

平成30年産米については、出荷時の仮単価と12月の追加金の2段階で支払い、さらに精算金を支払うことが出来れば最終精算金を支払うということに見直しを行いました。

カントリーエレベーターの数量が確定する令和元年度の6月頃を考慮して集荷販売し、状況を見ながら精算可能財源が生じれば、精算金を支払います。

Q 財務調整について、雲南地区本部のみ解消されていないが、具体的な解消時期を示し、しっかり取り組んで欲しい。

A 財務調整については剰余金を創出して解消していくことになりました。しかし、安易に赤字事業を廃止して剰余金を創出するという考えでは、JAとしての使命が果たせなくなり、JA離れに拍車がかかるため、今後の経営判断が大変難しくなってきました。

Q 第2次中期経営計画では営農指導員資格を2名が取得することになっているが、これだけの増員で指導が十分にできるのか。また、職員に対してしっかり研修を行い、組合員から頼られる職員を育成しなければならぬ。

A 人事教育関係については鳥根県農業協同組合中央会に移管するため、中央会で階層的な指導、資格研修を行います。

営農指導については、役員が担い手を訪問した際にも要望があり、JAの自己改革を推進していくうえで大切なことだと感じています。営農指導も多岐多様となっており、スマート農業なども進めていく必要があります。それらを踏まえて3カ年経営計画を実行していきます。

総代数および出席総代数

● 総代数 / 159名  
● 出席総代数 / 115名

Q 企業などの研修制度はとも厳しい。英検や簿記など、管理職を目指す人は様々な資格を持っている。JAでも職員に資格を取得させ、資質を上げなければならない。

A JAの業務に必要な資格は各分野で多岐に亘り、職員は業務毎に必要な資格をそれぞれ受験し、取得しています。

管理職として登用する者は、管理職登用試験を受験し合格した者であり、その受験資格者は一定の基準を満たした職員となっています。

Q 役員定数の見直しで、地区本部運営委員の役割が増すことになると思うが、委員会は年間何回開催されるのか。また、協議内容は組合員や総代と共有化されているのか。

A 運営委員会は3か月に1回の開催でしたが、地区本部運営委員会の運営規程を改正し、2か月に1回の開催となりました。情報の共有化については必ずしも十分ではないと感じているため、今年度からいろいろな場面を通じて情報をお知らせしていきます。





# 地区本部長 就任のごあいさつ



● 常務理事 本部長

## 竹下 克美

この度、JAしまね第5回通常総代会におきまして理事に選任され、同日開催の理事会で常務理事・雲南地区本部長に選任され、就任いたしました。元より浅学菲才の身でございますので旧に倍しましてのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年にJA雲南が誕生した時の理念は、食材の宝庫と呼ばれる雲南の郷に地域農業を核にして心豊かな故郷を創るという「グリーン・ピア奥出雲営農圏構想」と呼ばれるものでした。26年たった今も、その理念は県下に類を見ない行政とJAが一体となった農業振興体制の中で脈絡と息づいています。「JA綱領」の最初には「地域の農業を振興し、食と緑と水を守る」とあります。地域農業の振興はJAに与えられた最重要の使命であります。また綱領に



は「安心して暮らせる豊かな地域社会を創る」と謳っています。我々も総合事業を営むJAとして「地域の活性化」への一翼を担いたいと考えます。JAをめぐる情勢、農業・農村を巡る情勢も一段と厳しさを増していますが、他の業界も同じような厳しさの中で生き残りをかけています。こういった厳しい時代だからこそ、今一度、原点に返り、総合農協として新しい時代の価値観を全ての組合員、利用者の皆様にお届けしなければなりません。

今、私の机には「愚直一徹」という色紙が眺みを利かせています。雲南地区本部は地域社会に根差した組織としての社会的役割を果たすために役職員一丸となって愚直に邁進したいと存じますので、叱咤激励を賜りますようお願いを申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

# 地区本部長 退任のごあいさつ



● 前・常務理事 本部長

## 加藤 博樹



この度、第5回通常総代会をもちまして、任期満了に伴う役員改選により、常務理事 雲南地区本部長を退任いたしました。昭和44年赤来町農業協同組合入組以来、平成5年雲南農業協同組合合併を経て、平成27年島根県農業協同組合となり、50年の長きに亘り職員として役員として、農協運動に取り組ませていただきました。この間、皆様方には公私に亘り、格別のご指導とご厚情、ご協力を賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。

昨今の農業、農村、農協をめぐる情勢は、外にTPP、ヨーロッパとのEPA、アメリカとの2国間貿易交渉、内に「農業・農協」改革、少子高齢化による生産労働人口の減少、荒廃農地の増大、限界集落の拡大等々、多岐に亘り、予断を許さない状況には違いありませんが、今日の日本の繁栄は、まぎれもなく地方、農村が支え、

築いたといっても過言ではありませぬ。増大する輸入農畜産物に対する健康不安に対し、安全・安心の食は、地産地消に代表される日本農業そのものです。本日の、地方創生を図るには、農協組織なくしてはなりません。また、協会の維持発展に貢献する組織たることを、念願いたします。

おわりに、長年に亘り、お支え頂いた皆様方に、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。退任のご挨拶といたします。ありがとうございます。



### 令和元年7月からの 役員体制

雲南地区本部においては、常勤役員2名、非常勤理事3名の体制となります。6月30日付で就任された新役員については本誌6ページをご覧ください。

#### 常勤役員 担当部門について

- ① 竹下克美常務理事本部長  
「地区本部統括」とし、「金融共済」及び「総務」部門を担当いたします。
- ② 源之美執行役員副本部長  
「地区本部統括補佐」とし、「営農」、「経済」、「福祉」及び「企画管理」部門を担当いたします。また「雲南すずらん福祉センター所長」を兼務いたします。

任期満了に伴い退任された役員を報告いたします。

#### 【退任役員】

- 加藤 博樹  
(前常務理事本部長)
- 上田 幸敏  
(前常務理事副本部長)
- 高橋 敬二  
(前理事)
- 早川 正三  
(前理事)
- 景山 和夫  
(前理事)

## 雲南地区本部

# 運営委員会について

JALまねでは組合員の意見・要望を地区本部ならびにJA全体の事業運営に反映させるため、地区本部運営委員会を設置しています。

この度、運営委員会改選に伴い、新たに選出された方々は次のとおりです。



横田地区  
砂田 茂敏



仁多地区  
石原 誠治



仁多地区  
和久利 健



大東地区  
錦織 悦雄



大東地区  
山根 英男



横田地区  
松原 康夫



掛合地区  
景山 隆義



吉田地区  
渡部 博



三刀屋地区  
藤原 陽



木次地区  
細木 勝



加茂地区  
末次 忠三



大東地区  
澤和 秋徳



飯南町ブロック  
景山 百合子



雲南市南ブロック  
芝原 佐智子



雲南市北ブロック  
三原 栄子



奥出雲町ブロック  
原田 敦子



赤来地区  
今岡 和登



頓原地区  
戸田 雅之

### 委員会の役割と位置付け

- ① 多様な組合員の意見を幅広く伺い、協議会等を通じて組合運営に反映する。
- ② 報告中心ではなく意見交換や協議・評価を行い、双方の会議体を目指す。

### 委員の役割と位置付け

- ① 運営委員は、各地域や組織の代表としてJA運営へ参画する。
- ② 組合運営（方針・各事業企画や催し、諸活動等）の協議や評価を行う。

### 運営委員会だより

(7月5日開催)

#### 《協議事項》

- ① 地区本部運営委員会運営規程について
- ② 委員長・副委員長の互選について
- ③ 地区本部運営委員報酬額について
- ④ 運営委員会及び運営委員の役割と業務内容等について
- ⑤ 地区本部業績還元取扱について
- ⑥ その他

#### 《質疑応答》

※おもな要点をまとめたものです。

- Q 運営委員会の情報をJAの広報誌に載せてほしい。

A これまで、運営委員会の情報について、組合員は勿論、総代の皆さんについても十分に届いていませんでした。JAしまねとして広報機能の充実を大きな課題としているので今後、運営委員会の情報等については広報誌を通じて報告していきます。

- Q 運営委員についても支店長と情報を共有する機会を設けることが大切だと思う。
- A 定期的に運営委員と支店長執行部との会議を開催していきます。この中で運営委員に対しJAの行事・イベントへの出席を要請させていただきます。



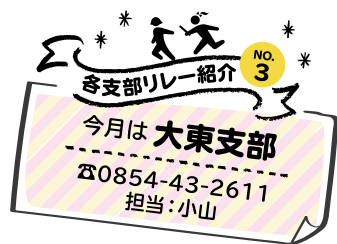
# うんなん 女子力

掲示板



JAしまね雲南女性部の活動を中心に、  
「女子力」あふれる楽しい話題をお届けします。

JA女性部は、昭和28年に、農村女性特有の課題を解決するために設立されたものです。  
JA女性部の活動に賛同される方は、どなたでも(農業を営んでいなくても)加入できます!!  
あなたも地域の仲間と一緒に活動してみませんか。



## 女性部 掲示板

### フレッシュミズ

#### 作って食べて交流深める フレミズ交流会開催!

と き/8月1日(木) ところ/かもてらす

今年のフレミズ交流会は、フレミズ部員や一般参加者をあわせ、総勢29人で開催しました。夏休みの恒例イベントとして毎年開いています。



楽しい交流会になりました!

HALムスイの料理講座では子ども達も積極的にお手伝いし、市販のルーを使わないカレーやミニトマトで作るアイスクリームなど全5品を作りました。スパイスの効いた大人のカレーに、悪戦苦闘する子どももいましたが、みんなで美味しく食べました。

その後、子ども達は食紅で和紙を染めて作るうちわ作りに参加。大人達は、雲南市木次町でリラクゼーションサロン蓮を営む、堀江朋子さんによるカラダリセット講座を受講し、部員同士や地域の人達との交流を深めました。

### 大東支部

#### お米を使ったごはんピザで和気あいあい

と き/6月25日(火) ところ/大東支店

この日は、家の光グループの8人が集まり、山陰中央新報「かあちゃんの一押し献立」に掲載するオリジナルレシピ「ごはんピザ」を作りました。メンバーの1人が考案したレシピに、他のメンバーは「ごはん



ホットプレートで焼き上げました

でピザ?」「どんな食感なの?」と話し、和気あいあいと調理しました。

調理後はみんなでピザを味わいました。家の光グループは明るく、おらかな方ばかりで笑いも絶えません。食欲も旺盛で、この日準備した食材は完食でした。



輪切りにしたタマネギをくりぬき、ご飯を詰めた「ごはんピザ」

## JA女子大掲示板 7月の女子大日誌

### 自分の身体に愛を送ろう ちょっと気になる私のカラダ 見直し実践講座

と き/7月11日(木) ところ/雲南地区本部

◎講師/「つちのと舎」主宰 三瓶 裕美氏

7月は、自分の身体に愛を送ろうと、カラダ見直し講座を開きました。「つちのと舎」の三瓶さんを講師に迎え、柔らかな音楽が流れる中、日頃頑張ってくれている自身の身体と向き合いました。「身体が痛い、肩こりがひどい、腰が痛い」誰もが抱えている悩みは、自身の骨と仲良くなることがとても大事と三瓶さん。骨や関節の仕組みを理解し、

JA女子大学雲南校とは?

「多分野にわたる講座を受講することで、やりたいことを見つけ、新しい仲間を作っていく場所です。」

それぞれが働きやすいようにしてあげましょと、身体ほぐしを行いました。

#### ●アンケートより

身体を伸ばすこと、足の指をしっかり広げたり動かしたりすることが大切だということ



身がほぐれて気持ちも晴れやかになりました

ことが改めて分かりました。日常生活の中で、意識してマッサージしたいと思いました。

(学籍番号 U8-012: 多田納恭子)







## 働く場合の年金って、 どうなるの?

### 働く場合の年金については 年金事務所などで相談できます

50歳以上の人は、年金事務所や年金相談センターに行けば、年金の見込額や、収入がいくらまでなら年金が減額にならないか、教えてもらえます。

### こんな人は在職老齢年金の 対象外です

支給停止の対象となるのは、部分年金や老齢厚生年金です。そのため、ずっと自営業や専業主婦で国民年金(老齢基礎年金)のみ受給している人は、年金受給中にいくら働いても年金がカットされることはありません。

また、部分年金や老齢厚生年金の受給者であっても、現在の働き方が

自営業などで厚生年金保険に加入しない場合は、いくら収入が多くても年金がカットされることはありません。



## 年金についてのご相談はJAで! 年金相談会のご案内

無料

●大東支店  
9月26日(木) 10:00~15:00

◎お一人ひとりの相談会です。できるだけご予約下さい。  
◎お問い合わせは、各支店窓口までお気軽にどうぞ。

### いいもの再発見を読んで

●農業未経験の桑原さんが頑張っておられる姿に、県内在住者としても嬉しい限りです。  
(掛合町・Iさん)

◎消費者の私たちは、地元産の農産物を買うことで、応援していきたいですね。

### ゴーヤの雌花について

●今年は夏野菜、特にゴーヤが雄花ばかり咲き、雌花が咲きません。低温で不調でしょうか? (三刀屋町・Iさん)

◎ゴーヤやヘチマなどのユウガオ科の植物は短日植物と呼ばれ、日中の日の長さが夜よりも短くなるまで(夏至を過ぎるまで)は雌花をつけない習性が

あります。

日の長さの他にも、寒さにあたったり、肥料不足などでストレスを感じると早く雌花をつけるようです。

実がついてからは、しっかりと肥料や水をあげるようにすると、長く花も咲いて実も採れるようになるので、参考にしてみてくださいね。

### Aコープの謎の商品 シヨウガの茎について

●私は湯通ししてからラッキョ酢に漬けています。梅酢に漬けたシソを入れると赤くなり、見た目も美味しそうになりますよ。  
(加茂町・Aさん)

◎赤などの暖色系は、食欲を高める色といわれています。シヨウガの効果も相まって、ご飯がすすみそうです。

### 今年も 面白野菜が来ました

◎奥出雲町のIさんが持ってこられた仲良しキュウリ。頭からお尻までピタリくっついていきます。こんなこともあるんですね。



◎大東町のKさんが持ってこられた人型ジャガイモ。しおらしくうつむく姿や夏の暑さで減入るようにも見えます。



9月の外勤日 18(水) 19(木) 20(金)

※支店によっては変更する場合があります。詳しくはお近くのJA窓口までお問合せ下さい。

## JAバンクからのお知らせ

ただいま「JAバンクしまね」では

- ①子育て世代の方
- ②当JAにて給与・年金のお振込みの方
- ③当JAにて年金お振込みの予約の方

を対象に、住宅・マイカー・教育の各ローンお申し込み時に金利引き下げのご案内を行っております。

詳しくは各支店の窓口までお問い合わせ下さい。

### ●子牛市場成績表

### 中央「反発」の相場展開

地区名	種別	取引頭数	最高価格	最低価格	平均金額	平均体重	キロ単価
雲南地区 本部	雌	28	1,109,160	366,120	718,277	280	2,568
	去	44	1,030,320	650,160	806,662	294	2,740
中央市場	雌	93	1,137,240	211,680	692,187	281	2,461
	雄	1	1,004,400	1,004,400	1,004,400	300	3,348
	去	116	1,243,080	250,560	824,226	303	2,719

令和元年7月の全国主要子牛市場平均価格は、雌730,608円(前月比102.10%)、去勢822,054円(前月比102.10%)、計783,331円(前月比102%)で、強気配の取引となっています。

## 畜産市況

7月



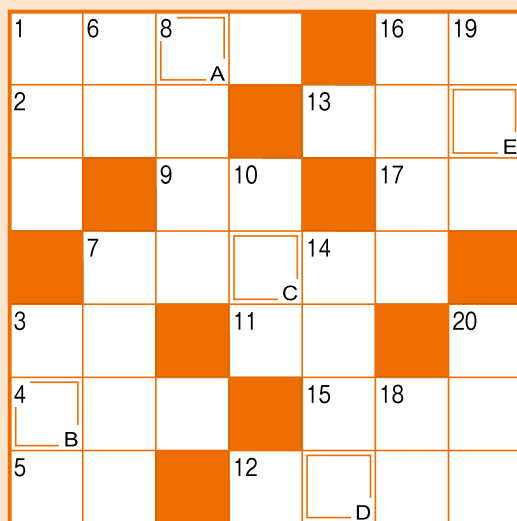
タテのカギ

- ① テレビのリモコンにはたくさん付いています
- ③ くだらかな——が続く丘陵地
- ⑥ 合唱部が練習するもの
- ⑦ 耳かきと共に行方不明になりやすいそうです
- ⑧ 今からこれじゃ、——が心配だなあ
- ⑩ 仲人から紹介を受けて、伴侶候補と会います
- ⑭ 宴会でグラスをみんなで掲げて……
- ⑯ 相撲の勝敗を記録した——表
- ⑱ ゴホゴホゴホ
- ⑲ 価格が高くなること
- ⑳ 煮物などに使う、アルコールを含む調味料

ヨコのカギ

- ① 9月1日は——の日。非常持ち出し袋や避難経路を確認しましょう
- ② 高知の名物料理、カツオの——
- ③ 皮膚の表面にある細かな模様。——の細かい肌
- ④ 食器を拭く布です
- ⑤ いがに守られた実がなります
- ⑦ 晴れた十五夜にはとても明るい
- ⑨ 矢を射る道具
- ⑪ 陽の反対語
- ⑫ 国や地方自治体に納めます
- ⑬ 首都はモスクワ。大きな国です
- ⑮ 肉料理に添えたり、刻んでスープに浮かべたりする香草
- ⑯ 傘にも凧(たこ)にもあります
- ⑰ バラの茎にある突起

二重マスの文字を A ~ E の順に並べてできる言葉は何でしょうか？



答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

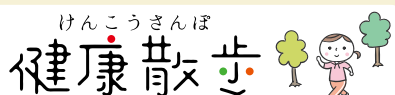
応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名（JAしまね全体）の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒699-1395 雲南市木次町里方1088-6  
JAしまね 雲南地区本部 ふれあい課 「クイズ」係  
2019年9月5日（木）（当日消印有効）

先月号の答え 「キモダメシ」



・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはありません。



要注意、熱中症

JA島根厚生連

毎日暑い日が続いていますね。夏は熱中症に注意が必要です。重症化すると命に関わります。熱中症の症状を理解し、予防に努めましょう！

◎熱中症は、高温多湿な環境に私たちの身体が適応できないことで生じる様々な症状の総称です。以下のような症状が出たら、熱中症にかかっている危険性があります。

- 1. めまいや顔のほてり
- 2. 筋肉痛や筋肉のけいれん
- 3. 体のだるさや吐き気
- 4. 汗のかき方がおかしい（何度拭いても汗が止まらない、まったく汗が出ないなど）
- 5. 体温が高い、皮膚の異常
- 6. 呼びかけに反応しない、まっすぐ歩けない
- 7. 水分補給ができない

このような症状が出ないように、日頃から熱中症の予防・対策をおこないましょう。

●熱中症の予防のための3つのポイント

- ① **脱水対策**——のどが渇かなかつたり、汗をかかなくても水やお茶などでこまめに**水分補給**します。大量に汗をかくと、汗とともに塩分（ナトリウムなど）も失われます。その場合は、水分に加え、塩分補給が必要です。スポーツドリンクを利用してもよいです。入浴時や睡眠時にも汗をかいているので、入浴前後、寝る前、起床時にも水分を補給しましょう。
- ② **体の内部の温度を上げない**——外出するときは、**11～15時ごろの日中の暑い時間帯**を避けます。また、外出や屋外での活動をする場合は、天気予報や環境省の「熱中症予防情報サイト」で、暑い日や時間帯を確認するとよいでしょう。外出したら、こまめに涼しい場所での休憩をはさみ、水分補給をします。
- ③ **室内を涼しくする工夫**——熱中症の約40%は室内で起きているというデータもあります。部屋はカーテンなどで日ざしを遮り、**エアコンと扇風機を併用**して温度を下げましょう。特に高齢者は、暑さを感じにくい場合があります。**温度計や湿度計**を使って数字で確認し、温度は28℃、湿度は70%を超えないようにします。

正しい理解・適切な予防で、暑い夏を乗り越えましょう！！



ハチを見かけたら巣づくり警報!

**無料調査**  
**ハチ駆除**

近寄らず、触らず!!  
ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は  
最寄りのJAまでご連絡ください。  
JAしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの  
地区担当者が訪問させていただきます。



お問い合わせ先

最寄りのJA各支店・  
支所にお問い合わせ  
ください

取扱業者

(公社)日本しるあり対策協会企業登録(島根県002・鳥取県002)

**Kodama 株式会社 コダマサイエンス**

■本社 / 島根県松江市西嫁島2-8-23 ☎0852-43-0852

■松江営業所 / ☎0852-26-6757 ■江津営業所 / ☎0855-52-6852

■益田営業所 / ☎0856-22-5390 ■隠岐営業所 / ☎08512-2-2471

## 島根県立農林大学校 入学試験実施のお知らせ

- 募集人員** ①農業科(有機農業・野菜・花き・果樹・肉用牛) / 40名【修業年限2年】  
②林業科 / 20名【修業年限2年】  
③短期農業経営者養成科 / 5名【修業年限1年】

- 試験日** 学校長推薦 / 令和元年10月30日(水)  
一般前期 / 令和元年12月11日(水)  
一般後期 / 令和2年2月13日(木)  
地域推薦 / 随時  
自己推薦 / 令和元年10月30日(水)、31日(木)  
※一般後期試験は実施しない場合があります。

- 試験会場** 島根県立農林大学校 (大田市)

◆詳しくは◆  
農林大学校の  
ホームページ、または  
農林大学校  
☎0854-85-7012  
まで。



## 簡単ガパオライス



ご飯の上にピリ辛いひき肉を乗せ、目玉焼きと一緒に食べるタイ料理の定番ご飯「ガパオライス」です。日本人の口にも合う味です。暑い夏にピッタリの料理で、フライパンひとつで作れるので、サッと手早く食べたい時にもおすすめです。

### ●材料（2人分）

鶏ひき肉……………	180g	赤唐辛子（小口切り） ……	1本
酒……………	大さじ1	卵……………	2個
赤パプリカ……………	1/2個	④ オイスターソース、ナンプラー ……	各大さじ1
ピーマン……………	60g		
玉ねぎ……………	60g	砂糖……………	小さじ1/2
バジル……………	20枚	サラダ油……………	大さじ1
にんにく（みじん切り） ……	5g	ごはん……………	2人分

### ●作り方

- ①玉ねぎ、ピーマン、赤パプリカは1cm角切り。
- ②フライパンにサラダ油、にんにく、赤唐辛子を入れ香りをだす。
- ③鶏ひき肉を入れ、酒をふりかけて炒める。
- ④玉ねぎ、ピーマン、赤パプリカを入れ炒め、しんなりしたら④の調味料を入れる。
- ⑤手でちぎったバジルを軽くまぜ、火を止める。
- ⑥目玉焼きを焼く。
- ⑦皿にご飯を盛り、⑤と目玉焼きをのせる。

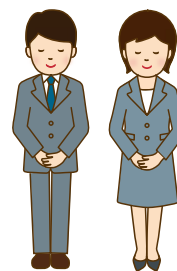


## JA共済ご加入時におけるおさいふカードへのポイント付与廃止のお知らせ

平素はJAしまねをご利用いただき、誠にありがとうございます。

さて、当JAでは、新規でJA共済にご加入いただいたご契約者のみなさまに、「おさいふカード」へのポイント付与を行っておりましたが、**行政庁の指導により**、令和元年9月30日までの新規共済契約をもちまして、おさいふカードへのポイント付与を終了させていただきます。何卒ご了承いただきますよう、よろしくお申し上げます。

今後も組合員・利用者のみなさまにご満足いただけるサービスの提供に努めてまいりますので、変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



### 表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通（ののむらなおみち）先生に描いていただいています。

今月の表紙は大田市三瓶町の「浮布池」です。浮布池は、三瓶山の堆積物が谷の出口をふさいで出来た堰き止め湖で、池の南岸近くにある中の島には瀬幣姫神社（にべひめじんじゃ）が祀られています。池の北岸からは水面に浮かぶ神社の鳥居が望め、幻想的な風景が当地に伝わる女性と大蛇の悲恋伝説を連想させます。

### 編集後記

本店トピックスでご紹介した「アグリミーティング」と「大産直市」。私も高校生ブースを見学しましたが…、高校生たちがキラキラした眼差しで商品を説明してくれると買わないわけにはいきませんよね。おすすめされるがまま、ついつい買すぎてしまいました。後悔はありません。おじさんは格好をつけたかったのです。高校生のみんな！おいしかったよ！（和）

### 【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。

